

令和6年度 八潮市立保健センター事業実績報告

資料1

令和7年4月末現在

1 健康づくり推進事業

(1) 健康づくり懇話会

地域ぐるみによる健康づくり事業を推進するため、町会と協働で健康づくり懇話会を開催した。

	町 会 名	実施回数	参加者数	実施内容
継続	上大瀬町会	1回	82人	町会夏祭りで健康クイズと啓発品の配布
	下木曽根町会	4回	104人	講話と座談会

(2) 健康まつり

保健・医療・福祉の連携と啓発を図り、健康づくりを市民とともに考える場として、第22回八潮市健康まつりを開催した。

実施日	参加者数
10月27日	3,886人

(3) ウォーキング講習会

市民の健康づくりのため、身近にできる運動であるウォーキングの講習会を実施した。

事 業 名	回数	延参加者数
ウォーキング講習会	3	70人

(4) ラジオ体操講習会

気軽に楽しめる生涯スポーツの一環として、正しいラジオ体操を身に付け、健康の維持増進を図るために講習会を実施した。

事 業 名	実施日	参加者数
ラジオ体操講習会	7月5日	50人

(5) 健康長寿サポーター養成講習会

埼玉県が進める「健康長寿埼玉プロジェクト」の一環として、埼玉県健康長寿サポーター事業実施要領に基づき、「健康長寿サポーター養成講習会」を実施した。

事 業 名	回数	養成者数
健康長寿サポーター養成講習会	5	80人

(6) コバトンALK00（あるこう）マイレージ

埼玉県の事業と連動し令和5年度まで実施していた「八潮市ハッピーこまちゃん健康マイレージ」の後継事業として、誰でも使いやすく、楽しく歩ける機能が充実した歩数管理アプリを活用する「コバトンALK00マイレージ」を実施した。

事 業 名	登録者数
コバトンALK00マイレージ	825人

(7) 体力づくり講座の開催

健康づくりに取り組む市民を支援するため、筋トレ講座、ウォーキング講座、栄養講座を実施した。

講 座 名	実施日	参加者数
筋トレ講座	10月3日	21人
ウォーキング講座	10月10日	19人
栄養講座	10月12日	42人

(8) 骨髄移植ドナー助成金の交付

公益財団法人「日本骨髄バンク」が実施する骨髄バンク事業において、ドナー登録者の中で骨髄等を提供した場合に助成金を交付しているが、令和6年度は申請がなかった。

(9) ゲートキーパー養成講座の開催

八潮市いのち支える自殺対策計画に基づき、心の健康について理解し、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげるゲートキーパー養成講座を市民向けに開催した。

事 業 名	実施日	参加者数
ゲートキーパー養成講座	11月21日	30人

(10) 健康づくりの計画策定

市民の健康づくりを総合的に推進するための計画として、食育推進計画を栄養・食生活の領域に包含した「第3次八潮市健康づくり行動計画」を策定した。また、自殺対策を推進するための計画として、「第2次八潮市いのち支える自殺対策計画」を策定した。

(11) 健康管理システムの維持管理

健康管理システムの標準化対応やHPVワクチン接種の副本登録対応を行った。

(12) 食育推進事業

おやこ料理教室、おとなのための食育セミナー、食育指導、栄養講座、栄養相談、食に関する情報提供等を行い、食育の推進を図った。

2 健康増進事業

市民の健康の保持増進を図るため、壮年期からの健康づくり事業を総合的に実施した。

(1) 健康手帳

交付総数	年齢別内訳	
	40～74歳	75歳以上
542人	312人	230人

(2) 健康教育

区 分	事 業 名	実施回数	延参加者数
病態別健康教育（注）	地区依頼等	0回	0人
	乳がん集団検診（自己検査法）	13回	767人
	H C（乳がん自己検査法）	10回	216人
	健康づくりの料理教室	11回	159人
一般健康教育	地区依頼等	58回	690人
	体力づくり講座	3回	82人
	健康長寿サポーター養成	5回	80人
	がん検診県民サポーター養成	1回	19人
	健康づくり懇話会	5回	186人
	生活習慣病予防講座	1回	36人
骨粗しょう症 （転倒予防）健康教育	骨単独検診結果説明	10回	216人
	地区依頼等	0回	0人
歯周疾患	地区依頼等	0回	0人
合 計		117回	2,451人

再掲

再掲

再掲

注：病態別は、肥満、高血圧、脂質異常等について健康教育を実施したものを計上。

(3) 健康相談

重点健康相談（注）		総 合 健 康 相 談	
回 数	相談者数	回 数	相談者数
190回	240人	6回	6人

注：重点健康相談は、歯周疾患、骨粗しょう症、病態別の健康相談等を計上。

(4) 健康診査等

事 業 名	区分	対 象 者	受診者数
健康診査	個別	40歳以上の生活保護受給者	18人
骨粗しょう症検診	集団	20歳以上の市民（女性のみ）	1,356人
歯周疾患検診	個別	20・30・40・45・50・55・60・65・70歳の市民	383人
肝炎ウイルス検診	個別	40歳以上の市民で肝炎ウイルス検査未受診者	442人
ヘルシーチェック（注）	集団	20歳から39歳までの市民	258人

注：ヘルシーチェックは、生活習慣病予防を目的に血圧測定、尿検査、血液検査、骨粗しょう症検診（女性のみ）を実施した。

(5) がん検診

受診率向上対策として、子宮頸がん検診は20歳、乳がん検診は40歳の対象者に、無料クーポン券及び検診手帳を送付した。また、受診勧奨のため子宮頸がん及び乳がん検診では、罹患率の高い年齢の者に対して、胃がん及び肺がん検診では、40歳から60歳までの5歳ごとの節目年齢の者に対して、個別通知を発送した。

なお、平成17年度から国のがん検診指針を踏まえ、子宮頸がん検診、乳がん検診、胃がん検診内視鏡検査は、2年に1回の受診としている。

事業名		対象者数 (注1)	受診者数(注2)		除外者 (注3)	受診率 (注3)
			本年度	前年度		
胃がん検診	(集団) バリウム	55,033人	877人	735人	358人	3.7%
	(個別) 内視鏡	41,320人	495人	313人		
肺がん検診	(集団)	55,033人	1,569人	1,232人		2.9%
	(うち喀痰検査)		35人	31人		—
大腸がん検診	(個別)	55,033人	6,040人	6,039人		11.0%
子宮頸がん検診	(個別)	38,035人	2,513人	2,171人	77人	12.1%
乳がん検診	(集団)	26,875人	767人	619人	11人	10.4%
	(個別)		804人	630人	15人	
前立腺がん検診	(個別)	3,703人	269人	260人		7.3%

注1：対象者数は、検診対象年齢の全数（胃（バリウム）、肺、大腸、乳がんは40歳以上、胃（内視鏡）は50歳以上。なお、乳がんは女性のみ、子宮頸がんは20歳以上の女性のみ。前立腺がんは50～75歳の5歳節目年齢の男性のみ集計）

注2：子宮頸がん検診受診者数には20歳以上の妊婦健康診査受診者（689人）が含まれる。

注3：胃・子宮頸・乳がん検診の受診率は、国の算定式（※）によるものである。

それ以外の検診受診率は、本年度受診者数を分子として算出したものである。

※ 分子（受診者数）は、本年度に前年度分を加算した上、2年連続受診者を除外。

(6) 結核検診

結核のまん延を防ぐため、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、胸部X線検査を実施した。

事業名	実施回数	受診者数(注)
結核検診	13回	604人

注：肺がん検診で撮影したフィルムを使用し判定するため、65歳以上の肺がん検診受診者数の再掲である。

(7) こころの健康相談

精神科医による健康相談を実施し、こころの病気や高齢者の認知症などの相談に対応した。

事業名	回数	相談者数
こころの健康相談	8回	10人

(8) こころの健康講座の開催

こころの健康づくりを啓発するため、こころの健康講座として講演会を開催した。

事業名	実施日	参加者数
こころの健康講座	12月1日	28人
ママのこころの健康講座	10月12日	23人

(9) 精神保健訪問指導

精神保健指導が必要と認められる者及びその家族等に対して保健師が訪問し、必要な助言等を行った。

事業名	実人数	延人数
精神保健訪問指導	6人	20人

(10) アピアランスケア用品購入費助成【令和6年度新規事業】

がん治療に伴う外見の変化を補うため、購入したアピアランスケア用品の購入費用の一部として、上限20,000円（1人1回限り）を助成した。

事業名	助成人数	助成用具	
アピアランスケア用品購入費助成	20人	ウィッグ等	その他補整具
		19件	3件

※助成用具両方の助成があり、人数と件数の合計は異なる。

(11) 高齢者保健介護予防一体化事業

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができる期間を延伸し、QOLの維持向上を図るため、高齢者の特性を踏まえ、関係課と連携を図り一体的に事業を実施した。

・ハイリスクアプローチ

健診の結果、身体的虚弱の状態がある方や糖尿病治療中断者、健診や医療機関の受診履歴のない方について、個別に訪問や電話により状態を把握し、必要な支援を実施した。

事業名	対象者数	訪問数	未把握数	実態把握数
身体的フレイル	25人	19人	6人	－
重症化予防（糖尿病性腎症）	23人	3人	3人	17人
健康状態不明者対策	53人	48人	5人	－

・ポピュレーションアプローチ

高齢者の通いの場等での相談ができる場づくりや積極的な関与として健康教育を実施した。

事業名	実施した通いの場	実施回数	参加者数
健康教育・健康相談	31会場	78回	1,401人
フレイル状態の把握	28会場	46回	591人

3 予防接種事業

感染症のまん延を防ぐため、予防接種法に基づく対象疾病に対する定期の予防接種を、次のとおり実施した。

(1) 子どもの定期予防接種（A類）

事業名 (接種ワクチン)		該当児(者)数(注1)		被接種児 (者)数	接種率 (%)
		対象年齢	人数		
ロタワクチン	1価	生後6週0日後～24週0日後	674人	延 756人	56.1
	5価	生後6週0日後～32週0日後		延 820人	40.6
ヒブワクチン (注2)	初回(3回)	2か月～5歳未満	674人	延 206人	10.2
	追加	初回3回接種後7か月以上	707人	585人	82.7
小児用肺炎球菌	初回(3回)	2か月～5歳未満	674人	延 2,005人	99.2
	追加	初回3回接種後60日以上かつ1歳以上	707人	646人	91.4
B型肝炎(3回)		2か月～1歳未満	674人	延 1,964人	97.1
B C G(1回)		1歳未満	674人	634人	94.1
4種混合	1期初回(3回)	2か月～7歳6か月未満	674人	延 244人	12.1
	1期追加	1期初回3回接種後6か月以上	707人	615人	87.0
5種混合	1期初回(3回)	2か月～7歳6か月未満	674人	延 1,790人	88.5
	1期追加	1期初回3回接種後6か月以上	707人	46人	6.5
麻しん風しん混合	1期	1歳～2歳未満	674人	626人	92.9
	2期	小学校就学前の1年間	736人	695人	94.4
水痘(2回)		1歳～3歳未満	674人	延 1,206人	89.5
日本脳炎 (注3)	1期初回(2回)	6か月～7歳6か月未満	714人	延 1,292人	90.5
	1期追加	1期初回接種後、概ね1年以上	714人	596人	83.5
	2期	9歳～13歳未満	721人	694人	96.3
HPV(子宮頸がん予防) ワクチン(2～3回)(注4)		小学6年生～高校1年生に相当する年齢の女子(通知は中1)	344人	延 416人	—
		キャッチアップ接種	4,658人	延 1,537人	—
2種混合	2期	11歳～13歳未満	756人	603人	79.8

注1：該当児(者)数は、令和6年度新たに予防接種対象者に該当した人数である。

(ヒトパピローマウイルス(HPV)は通知数であり、うち、キャッチアップ通知数については、令和6年度の定期最終年度の方(高校1年相当)を含む。)

注2：令和6年度より4種混合ワクチンにヒブワクチンを追加した5種混合ワクチンが開始され、ヒブワクチン単独での接種率が低下した。

注3：日本脳炎予防接種については、平成17年度から平成21年度にかけて接種の積極的勧奨の差し控えにより接種を受ける機会を逸した方について、平成23年5月20日から「特例対象者」として、20歳未満までの間に定期予防接種として接種可能となっている。

表中の被接種者には上記特例対象者分も含む。

注4：HPVワクチンの接種は、平成25年6月14日から令和3年11月26日まで積極的勧奨（接種の個別通知）を差し控えており、この間に接種機会を逃した方へ、公平な接種機会を確保する観点からキャッチアップ接種を実施している。

ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの接種率は、未完了者に対して通知を送付しているため、他のワクチンのように接種率の計算ができないため算出していない。

（令和6年度対象：平成9年度生まれ～平成19年度生まれの女性）

（2）男性の風しん定期予防接種（A類）

令和元年度から令和3年度まで、風しんの抗体保有率の低い世代の男性を対象に定期接種となったが、国の方針で令和4年度から令和6年度まで事業が延長された。

予防接種対象者は、風しんの抗体検査を実施し、陰性の方及び平成26年4月1日以降抗体検査を実施し陰性と判明している方である。

対象者：昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ男性

抗体検査			予防接種
対象者数	受検者数/率	陰性者数	被接種者数/率
10,627人	169人	29人	20人
-	1.6%	-	69.0%

（3）高齢者の定期予防接種（B類）

事業名 (接種ワクチン)	日数	該当者数		被接種者数	接種率 (%)
		対象年齢	人数		
高齢者向けインフルエンザ (注1)	10～1月	65歳以上	21,181人	10,654人	50.3
		60歳～65歳未満	37人	14人	37.8
新型コロナウイルス感染症 (注1)	10～1月	65歳以上	21,181人	5,785人	27.3
		60歳～65歳未満	37人	8人	21.6
高齢者肺炎球菌(注1・注2)	随時	65歳	1,224人	175人	14.3
		60歳～65歳未満	37人	0人	0.0

注1：高齢者向けインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症及び高齢者肺炎球菌における「60歳～65歳未満」の対象者とは予防接種法に規定された障がい有する者である。

注2：高齢者肺炎球菌の該当者数は、令和6年度より接種日当日に65歳の者となったため、令和5年度の接種対象者で未接種の方にも通知を送付している。

（4）任意予防接種

①大人の風しん予防接種助成事業

地域での風しんの流行を防ぎ、妊婦と生まれてくる赤ちゃんの健康を守るため、大人の風しん予防接種助成事業を実施し、風しんの予防接種費用の一部として上限3,000円（1人1回限り）を助成した。

助成対象者	助成人数
妊娠を予定または希望している女性（16歳以上50歳未満）	29人
妊婦の配偶者または同居者	5人
合計	34人

②八潮市造血細胞移植後定期予防接種費用助成事業

造血細胞移植により、既に予防接種によって得ていた免疫を消失したと医師に判断され、任意で再度予防接種を受けた方へ費用を助成しており、令和6年度は1名の申請があった。

4 感染症予防事業

感染症予防に向けた備蓄並びに普及啓発

- ①新感染症の流行に備え、消毒液、防護服セット等の計画的な備蓄を行った。
- ②インフルエンザ・手足口病・伝染性紅斑の感染症注警報を市ホームページ等で周知した。
- ③健康まつりや出前講座で手洗いチェッカーを用い、感染症についての普及啓発を実施した。

事業名	回数	参加者数
健康まつり	1	417人
出前講座	3	55人

5 保健センター管理運営事業

旧保健センター施設の維持管理

公共施設管理の担当課へ引き継ぐまでの間、旧保健センター施設の維持管理を実施した。

6 休日診療所運営事業

休日における急病患者の診療を確保するため、初期救急医療として実施した。

診療日：日曜日、祝日、振替休日、年末年始(12月31日から1月3日)

診療科目：内科、小児科

事業名	実施日数	受診者数	診療科目別内訳		1日平均受診者数
			内科	小児科	
休日診療	71日	1,112人	711人	401人	15.7人

7 母子保健事業

母子保健法に基づき、母子健康手帳の交付や健康教育、健康相談、健康診査等、妊婦や乳幼児を対象に母子保健事業を実施した。

また、令和6年4月1日「こども家庭センター」を設置し、全ての妊産婦、子育て世帯、こどもに対し、母子保健・児童福祉が一体となり相談支援を実施した。

(1) 各種事業等

事業名		実施日数	該当者数	実施・受診者数	受診率
早期不妊検査費助成		随時		79人	
不育症検査費助成		随時		7人	
低所得の妊婦に対する初回産科等受診料助成		随時		2人	
妊娠届出／母子健康手帳交付 (注1)		随時		786人／813人	
妊婦健康診査等	①一般健康診査 (14回)	随時	786人	延8,196人	
	②H I V抗体検査			753人	
	③子宮頸がん検診			713人	
	④性器クラミジア検査			773人	
	⑤H T L V－1 検査			717人	
パパ・ママ学級		13日		437人	
プレママサロン		9日		延80人	
新生児聴覚スクリーニング検査		随時		634人	
産婦健康診査		随時		延801人	
産後ケア	短期入所型	随時		62人/245日	
	居宅訪問型			0人	
	通所型 (集団型)			延316人/36回	
	通所型 (個別型)			延98人	
未熟児養育医療の給付		随時		33人	
未熟児訪問指導		随時		延27人	
新生児／妊産婦訪問指導		随時		419人/415人	
こんにちは赤ちゃん訪問 (注2)		随時		120人	
母子保健訪問指導		随時		延435人	
離乳食教室 (初期)		11日		(親子)139組	
離乳食教室 (後期)		11日		(親子)66組	
4か月児健康診査		随時	695人	641人	92.2%
10か月児健康診査		随時	653人	619人	94.8%
1歳6か月児健康診査		15日	684人	658人	96.2%
3歳児健康診査		15日	699人	660人	94.4%
はみがき教室		30日	1,317人	(親子)385組	
すこやか相談		26日		延158人	
ママのこころの相談		9日		14人	
子育てメンタルサロン		4日		延5人	
0歳児ファーストブック事業		11日		99人	

注1：母子健康手帳交付は、多胎等の追加交付（9人）、再交付（18人）を含む。

注2：妊婦さん訪問 1人を含む。

(2) にじいろ子育て相談室

専任の保健師・助産師が妊娠期から子育て期までのさまざまな相談に応じ、切れ目ない支援を行った。

相談方法	実施件数
母子健康手帳交付時の面接	851件
来所相談	568件
電話相談	862件

8 出産・子育て応援事業

妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型の相談支援の充実を図るとともに、子育てに係る商品やサービスを購入するための経済的支援を一体的に行う「出産・子育て応援事業」を実施し、各応援給付金を給付した。

事業名	実施日数	該当者数	実施・受診者数
出産応援給付金（支給妊婦）	随時		791件
子育て応援給付金（支給養育者）	随時		693件
妊娠8か月時アンケート	随時	718人	671人